

## カザフスタン共和国から表彰状を授与



表彰を受けた高村助教授（左から1番目）、山下教授（同3番目）と前田講師（同4番目）



山下教授に贈られた表彰状



高村助教授、前田講師に贈られた表彰状

カザフスタン共和国では、旧ソビエト連邦最大の核実験場であったセミパラチンスク核実験場において昭和24年から平成元年までの間に500回近い核実験が行われ、現在でも世代を越えた周辺住民への健康影響が懸念されています。

本学では、平成7年から、山下俊一教授をはじめとする医師・専門家が現地を訪問し、放射線後障害に関する影響調査や共同研究を行ってきました。さらにはJICA（独立行政法人国際協力機構）の医療改善計画プロジェクトに多くの専門家を派遣し、住民を対象としたがん検診システムの立ち上げに尽力してきました。また、21世紀COEプログラム「放射線医療科学国際コンソーシアム」でも現地専門家、医師を招聘してのシンポジウム、セミナーの開催や共同研究の実施など、活発な交流を行ってきました。

上記のようなこれまでの貢献に対し、5月25日（木）、山下俊一教授（現在WHOに専門官として出向中）がカザフスタン共和国保健省から、高村昇助教授と前田茂人講師が東カザフスタン州保健局からそれぞれ表彰状を授与されました。

長崎大学では今後も同地区からカザフスタン全地域を視野に入れた医療レベルの改善、さらには学術交流を推進する予定です。

（医歯薬学総合研究科学術協力課）